

旅行産業論Ⅱ

科目ナンバリング MAN-206
選択必修 2単位

1. 授業の概要(ねらい)

政府は2007年に観光立国推進基本法を成立させ、2008年秋には観光庁を設立し、観光の発展を新成長戦略のひとつに位置づけた。今や観光業は「成長戦略の柱」「地方創生の切り札」「21世紀最大の産業」とまで言われるようになった。

昨年来、新型コロナウイルスによって旅行者の動きは停滞しているが、人の旅に対する欲求はとどまるところを知らず、コロナ禍が落ち着いたあかつきには、爆発的な需要が期待される。

観光の領域は運輸・宿泊産業など多岐にわたるが、旅行業はその中において各産業を有機的に組み合わせ、観光を総合的に発展させる役割を担っている。少子高齢化や低成長が継続する社会にあって、活力ある社会を構築するために旅行業はどう展開していくべきか。講義では、できるだけ最新のデータを使って旅行業の流れを追い、今後の展開を検討する。

本講座では、訪日外国人旅行、テーマ別観光(ニューツーリズム)、旅行関連産業等について学ぶ。

2. 授業の到達目標

旅行業の基本的な知識を習得するとともに、政府の観光政策、地域活性化などのより広い観点から、旅行業の果たす役割を理解することを目指す。

3. 成績評価の方法および基準

期末試験(70%、授業資料類の持ち込み可)および学期内レポート(30%)で評価する。出席状況が悪い場合、レポートの提出が遅い場合は減点する。レポートの提出が一度もない場合は、期末試験の結果が良くても単位認定は見送られる。

4. 教科書・参考文献

教科書

なし。適宜資料を配布する。

参考文献

『観光概論』 JTB総合研究所

『旅行業務入門』 JTB総合研究所

竹内正人・竹内利江・山田浩之編著 『入門 観光学』 ミネルヴァ書房

5. 準備学修の内容

旅行に関するニュースに興味を持って接し、その背景を常に考えてみる。

授業で投影したスライドは毎回LMSに登載しておくので、目を通して復習すること。また予習としては、シラバスに沿って、次の授業に関する情報を調べておくこと。

6. その他履修上の注意事項

旅行産業論ⅠとⅡで全体を構成しているので、継続した受講を望む。

7. 授業内容

- 【第1回】 イントロダクション、最新旅行動向
- 【第2回】 地域づくりと旅行業
- 【第3回】 インバウンドの流れと国際競争力
- 【第4回】 インバウンドと東南アジア市場
- 【第5回】 インバウンドの取り組みの現状と課題
- 【第6回】 テーマ別観光(ニューツーリズム)(1)(外部講師予定)
- 【第7回】 テーマ別観光(ニューツーリズム)(2)エコツーリズム、グリーンツーリズム、メディカルツーリズムなど
- 【第8回】 交通運輸業と旅行業
- 【第9回】 航空産業と旅行業(外部講師予定)
- 【第10回】 (オンライン)観光施設と旅行業
- 【第11回】 UNWTOとWTTCの活動
宿泊産業と旅行業
- 【第12回】 ホテル業と旅行業(外部講師予定)
- 【第13回】 第1回～第12回までの振り返り復習
- 【第14回】 危機管理と旅行業、高度情報化社会と旅行業、旅行業の展望と課題
- 【第15回】 まとめとテスト